

南箕輪中学校2年生



職場体験学習と

キャリア教育 VOL.2

キャリア教育コーディネーター 富岡順子

職場体験before/after



前号では職場体験の概要と生徒たちの生の声をお届けしました。今号では、生徒たちが本番に向けて重ねてきた事前学習（キャリア教育）の様子と、体験を終えた生徒たちに今、どのような「変化や成長」が見られるかを紹介します。

大人と語る会

◆ 自己理解と他者理解

1年生の11月、地域の大人を講師に招いて“人生（仕事・地域・家庭・趣味・生き方・考え方など）”を語り合う会を実施しました。

生徒たちはこの日に向け、自身のこれまでを振り返る「人生グラフ」を作成。自己を見つめ直し、友人の価値観に触れることで、自分のキャリアについて考える土台を築いてきました。

◆ 対話から生まれた生徒たちの変化

挑戦を続ける大人たちとの深い対話を通じ、生徒たちは新たなものの見方を発見し、将来への視野や選択肢を大きく広げることができました。

また、この会は生徒だけでなく、講師の方々にとっても「子どもたちと話すことで自分の人生を振り返るきっかけになり、元気がもえた」と、地域と学校が学び合いつながる貴重な機会となっています。

マナー講座（2回実施）

1回目：緊張を乗り越えた電話連絡

職場体験先との事前打ち合わせは、生徒自らが電話をかけて実施。固定電話に馴染みのない生徒が多く、社会人と電話で話すことに最初は戸惑いと緊張の色が隠せませんでした。しかし、講師の方から電話の作法や話の段取りを丁寧に指導いただいたことで、本番の連絡を立派にやり遂げることができました。

2回目：身体で覚える訪問時のマナー

後半の講座では、訪問時の挨拶、自己紹介、名刺の受け取り方などの実践練習を重ねました。相手への敬意を表す「語先後礼」のお辞儀も驚くほど上手になり、生徒たちの表情は一步社会人へと近づいたような「かっこよさ」と「自信」に満ちあふれていました。

大人と語る会講師の皆様



マナー講座



体験を終えて～「お金を稼ぐため」から「誰かのために」へ～

職場体験を終えた生徒たちの振り返りシートには、普段の教室から一步外へ踏み出し、多様な仕事の現場に直接触れたからこそ得られた、温かい気づきが綴られていました。

事前学習の段階では、働く目的を「お金を稼ぐため」と考えていた生徒が少なくありませんでした。しかし、実際に地域で活躍する大人たちの姿を間近で見たことで、生徒たちの視座は「自分」から「他者や社会」へと一気に広がっていきま

生徒たちの振り返りより

・体験前は働くとは仕事をしてお金をいただくことだと考えていた。しかし体験後にはお客様に喜んでいただくために働くという考えになった。お客様に喜んでいただいた時、すごくやりがいと嬉しさを感じた。

・働くとは「誰かのために」働くということ。自分が責任を持って動くことが、目の前の人の安心や笑顔につながっていると学んだ。

・働くとは、「人に寄り添う、協力しあう」こと。人に寄り添うことで、相手が何をしたいか、何を考えているかがわかるようになったし、職場では、みんなで助け合ったり協力し合って仕事をしていたから。



これらの言葉に共通するのは、「誰かのために」という視点の変化です。自らが手がけた仕事が、誰かの喜びにつながり、巡り巡って自分の喜びや自己成長として返ってくる。生徒たちはこの働くことの幸福な循環を、自らの肌で確かに感じ取っていました。職場体験は、子どもたちが社会の一員として「どのように生きていくか」を見出す、キャリア教育の大きな一歩となりました。